

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

鶴 貝 大 祐

○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

【所 見】

藤枝市は、市民が幸せな健康生活を少しでも長く続けられるまちにすることを重点戦略と捉え、疾病予防を中心に「守る健康」と「創る健康」の両面で他の自治体に先駆けた健康・予防日本一への取り組みを展開している。「守る健康」の面では、自治会を取り込んだ1,000人近い保健委員による健康予防体制の構築等により、約50%と驚異的ともいえる特定健診受診率に加え、がん健診においても肺がんや乳がんなどは全国的に上位の実績を誇っている。「創る健康」では、どの市町村も課題としている働き盛り世代の健康関心度を高める取り組みとして、健康マイレージのウェブ版やウオーキングアプリの「あるくら」により、対象となる世代が使いなれたICTを活用し生活習慣病の予防を進めている。また、民間企業と連携し市民への周知と参加を進める施策にも取り組んでいる。今後は新たな取り組みとして、慢性腎臓病の重症化予防のため医師会や市立病院と担当部局がネットワークを構築し、ふじえだCKDネットマニュアルの策定や、新生児聴覚検査・妊婦歯科健診事業等を開始するとしている。

平成30年度は、国民健康保険の広域化に伴い各市町村では医療費削減への一層の対策が求められる中、藤枝市の徹底した取り組みは見習うべき点が多い。例えば栃木県は糖尿病患者数が全国比で多いといわれているが、糖尿病性腎症など重症化により人工透析が必要になると医療費が年間500万円とインスリン治療の10倍に高騰する。市民の幸せな健康生活の維持と医療費削減のためには生活習慣病予備軍に対して、重症化や合併症を未然に防ぐ適切な保険指導が重要である。

本市としても藤枝市の「守る健康」の取り組み等を大いに参考とし、健康予防体制のさらなる充実に努め、特定健診の受診率のアップと保健指導の強化につなげられるよう提言してゆきたい。

○東京都国分寺市

国分寺市プレイステーションについて

【所 見】

国分寺市プレイステーションは1982年に、およそ2,000平方メートルの民有地に開園した。当初は財団法人プレイスクール協会により運営されていたが、財団の撤退があり、市民と行政の遊び場活動の継続への希求から、利用者の中から育った市民グループが国分寺プレイステーションの会という市民団体を設立し、その後2000年にNPO法人「冒険遊び場の会」が誕生した。同年、市も「国分寺プレイステーション条例」を定め、以来行政が「冒険遊び場の会」との指定管理者契約に基づき協働事業として運営されている。このような施設では、活動資金の確保が継続的な運営の生命線であり、冒険遊び場の必要性を訴えてきた市民はもとより、それに応えた行政の努力もすばらしいと感じる。双方の役割としては、NPO側は管理運営の全てと、ボランティアによる運営、研修の企画を行う。一方、行政側の分担は委託という形で資金を提供することと、広報協力である。

施設にはプレイリーダーが常勤しており、置かれている遊具は全て手づくりで、中には子供たちと一緒に作った基地などもある。子供たちは常勤のプレイリーダーのもとで、好奇心を抑えることなくのびのびと遊べる環境である。一方で、現在一部近隣住民の方からの「苦情」が寄せられていることが原因で、本来の「冒険遊び」としての活動が抑制されつつあるなど課題も抱えている。

子供にとって遊びとは、「生きること」そのものであり、遊びながらたくさんのことを学び、成長し、心を豊かに育む。現代の遊びはゲームや電気仕掛けのおもちゃのように、スイッチを入れればあとは受動的に物事が進んでいくものが多い。しかし乳幼児や成長過程の子供にとっては、自発的な遊びが学びと発達につながる。自発的な遊びの過程で悩み・つまずき・工夫をこらし解決する。その繰り返しが成長につながるのだと思う。国分寺市プレイステーションのような「冒険遊び場」はまさにそのような場であると感じた。

足利市においてもぜひ参考にし、このような「冒険遊び場」を市民と協働して設置できるよう求めていきたい。